

【報告事項】

1 第48回広報活動コンクールの実施結果について

（総務部）

警察本部から「188作品の応募があり、三段階の審査を経て金賞の1作品、銀賞の2作品、銅賞の3作品を決定した。受賞作品を含む20作品については、警察庁主催の第48回広報用写真コンクールに応募することとしている。」旨の報告があった。

公安委員から「これらの作品をいかして警察活動を明るく発信していただきたい。」旨の発言があった。

2 令和6年上半期の治安概況について

（警務部）

警察本部から「刑法犯認知件数については、前年同期比で増加しており、特に自転車盗、万引きの増加が顕著である。ニセ電話詐欺については、昨年を上回るペースで被害が発生している。今後も予防対策を推進するとともに、この春に新設した特殊詐欺連合捜査班による全国警察が一体となった捜査活動を行い、予防と検挙の両面からニセ電話詐欺対策を強化していく。SNS型投資・ロマンス詐欺については、ニセ電話詐欺と比べても認知件数・被害額ともに極めて厳しい状況が続いている。今後も波及性の高い広報啓発やSNSに係る被害防止措置等を推進していく。暴力団の取締りなど組織犯罪対策の強化については、平成24年発生の道仁会幹部による手りゅう弾投てき事案を検挙するなどの成果を挙げており、今後も暴力団に対する取締りや実態解明を徹底するとともに、社会全体での暴力団排除のほか、保護対策を徹底していく。匿名・流動型犯罪グループについては、本年4月に課を新設し、グループの実態解明及び実態に応じた戦略的な取締り、資金源対策を実施しているところであり、今後も実態解明を徹底するなど、グループの弱体化・壊滅を進めていく。飲酒運転・交通事故抑止対策の強化については、飲酒運転による交通事故の発生件数・検挙件数は前年同期比でともに増加している。今後も取締りや飲酒運転を許さない社会環境づくりを推進していく。交通事故の発生件数は前年同期比で減少しているものの、死者数については昨年から更に増加し、憂慮すべき状況にある。また、年初から交通死亡事故が激増したことに伴う緊急対策をはじめ、各種対策を実施した。今後も取締りや交通安全教育、広報啓発活動を推進していく。自転車関連事故の発生件数・検挙件数については、前年同期比でともに減少している。上半期には自転車に対する広報啓発活動

や取締りのほか、特定小型原動機付自転車についてもシェアリング事業者等と連携した交通ルールの周知を図った。今後も危険性が高い違反に対する取締りや交通安全教育、自転車通行空間の整備等を推進していく。性暴力・児童虐待への的確な対処については、性犯罪の認知件数は前年同期比で増加している。上半期には被害防止対策や連続不同意わいせつ事件等の検挙など、予防と検挙の両面からの取組を実施した。今後も被疑者の早期徹底検挙、分析に基づく重点警戒、教育・広報啓発等を推進していく。人身安全関連事案については、児童虐待の通告児童数は前年と同水準、ストーカーの相談等件数は減少傾向、DVの相談件数等は増加傾向にある。上半期にはストーカー対策における加害者連絡等の新たな施策を推進するとともに、改正DV法の施行に伴う関係機関との連絡の強化を図った。今後も被害者等の安全確保を最優先に組織的対処を徹底するなど各種対策を推進していく。サイバー空間の脅威への的確な対処については、検挙件数は減少、相談件数は増加している。上半期は関係機関等との連携体制の拡充、事業者等に対する情報発信や共同対処訓練等を実施した。今後も部門の垣根を超えた連携を強化するとともに、関係機関等と連携した被害防止対策等を推進していく。重要凶悪事件の認知件数については、前年と同水準、検挙率については高水準で推移している。上半期には捜査第一課に新設した初動捜査支援係が防犯カメラ捜査の初動捜査で警察署を支援するなど事件の早期検挙に寄与している。今後も犯人の早期かつ徹底した検挙のほか各種活動や取組を推進していく。災害・テロ等の脅威への的確な対処について、災害対策に関しては、対処能力向上に向けた教養訓練、県民の自助意識醸成に向けた取組等を推進したほか、6月30日からの大雨でも各種災害警備活動を実施した。今後も実践的訓練の反復実施など、事前対策を徹底し、災害等への確に対処していく。各種テロ対策については、県内主要行事において主催者と連携し、警備を完遂したほか、テロ対策パートナーシップ推進会議を全ての警察署でも構築すべく拡充を進めているところである。今後も官民連携によるネットワークを活用した継続的なテロ対策等を推進し、テロの未然防止に万全を期していく。ローンオフエンダー等対策については、新設した対策室において、関連情報を一元的に集約し、必要な対策を実施した。今後も部門間の連携を一層強化し、警察の総合力を発揮した対策を推進していく。警護等活動については、万全な準備により、本年1月の動物園技術者研究会、先の全国高校総体の開催に伴う警衛を完遂した。今後も大規模警護を見据え各種取組を推進していく。経済安全保障の確保に向けた技術情報等流出防止対策について

は、上半期は企業等に対するアウトリーチ活動を実施した。7月には企業等の関係者を集めた経済安全保障セミナーを開催し、今後も技術情報等の流出防止対策を推進していく。今後も各種治安課題に迅速・的確に対応していくことはもとより、県民の皆様が事件・事故に遭わないように未然防止に努めるとともに、事件・事故が発生した際は被疑者を早期検挙するなど、引き続き県民の安全・安心の確保に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「SNS型投資・ロマンス詐欺は認知件数、被害額ともに大きな被害が出ているが、有効な対策は何かあるのか。」旨の発言があり、警察本部から「ニセ電話詐欺は金融機関やコンビニ等が介入する機会があるが、この種の事案は、第三者が介入する機会があまりなく、また内容も投資やロマンスが主であるので、被害者が他に相談することも少ない。その結果、騙されている期間が長期化し、被害額も大きくなる傾向にある。関係機関と連携し、広報啓発を中心とした各種対策を推進する。」旨の説明があった。

公安委員から「初動捜査支援係は具体的にはどのような係なのか。係を新設したことにより、効果的な初動捜査ができているのか。」旨の発言があり、警察本部から「重要凶悪事件が発生した際に、防犯カメラ捜査や令状請求等の支援している。係の新設により、特に小・中規模の警察署においては、初動捜査時の人員確保の課題が解消されている。」旨の説明があった。

公安委員から「匿名・流動型犯罪グループに対処するため組織犯罪捜査課が新設されたが、成果は見られるのか。」旨の発言があり、警察本部から「だまされた振り作戦については、去年は検挙が1件だったが、本年4月以降は5件を検挙するなど成果は出ている。また、事件検挙についてはこの後、発表予定である。マネロン担当の係があり、犯罪収益のはく奪等についても推進している。」旨の説明があった。

公安委員から「性犯罪の認知件数が前年と比べて増加しているが、法改正が関係しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「全国的にも令和3年から増加している傾向があり、要因は様々あり、一概には言えないが、刑法及び刑事訴訟法が一部改正され、社会的に相談しやすい環境ができたことも影響している可能性はある。」旨の説明があった。

公安委員から「自転車盗や万引きについては、予防のための対策を関係機関とも協力して実施していただきたい。」、「飲酒運転の発生件数と検挙

件数が前年と比べて多くなっているのを、対策を強化していただきたい。」旨の発言があった。

3 令和 6 年上半期の懲戒処分状況について

(警務部)

警察本部から「令和 6 年上半期の懲戒処分者は 12 人で前年同期比では 6 人増加した。うち逮捕者は 3 人であった。処分種別は免職が 3 人、停職が 5 人、減給が 4 人で、業務上・私行上の別では、すべて私行上であった。階級別は巡査が 6 人、巡査部長が 1 人、警部補が 4 人、行政職員が 1 人であり、全国の処分者数では本県が最多となっている。福岡県警察においては、県民の安全・安心の確保を運営指針に掲げる中、懲戒処分が大幅に増加しており、警察職員としてあるまじき悪質な事案も多いことから、引き続き全職員に対して一層の規律の振粛を図るとともに、職員個々の特性や年代別、階級別などリスクに応じた効果的な職務倫理教養、職員の士気高揚に資する双方向のコミュニケーションを土台とした良好な職場環境づくりなどの取組を推進し、非違事案の防止に努めていく」旨の報告があった。

公安委員から「日頃から様々な形で指導をしていると思うが、なぜこんなに増えているのか。」旨の発言があり、警察本部から「様々な取組をしているが、処分された者は、指導を自分事として捉えていなかった者が多い。4 月以降は年代別や階級別の少人数の検討会を実施し、一人一人の心に届くような教養をしている。」旨の説明があった。

4 警固界限総合対策の取組状況等について

(生活安全部)

警察本部から「近年、福岡市中央区天神の警固公園に「警固界限」と呼ばれる家庭等に悩みを抱えた少年少女やリストカット経験のある少年少女、援助交際を求める少女等が集まり、犯罪に関与し、又は被害に遭う事案が散見された。このような現状を改善するため、昨年 6 月から中央警察署と少年課は検挙対策、保護対策、環境対策を 3 本柱として「警固界限総合対策」を推進中である。検挙については、令和 5 年 6 月に連続発生した凶悪事件の犯行動画が SNS で拡散され、治安悪化が危惧されたため、警固界限の実態把握と各種捜査を推進し、悪質グループによる凶悪事件等を検挙するとともに、グループを壊滅させた。また、警固界限の少女が中

洲所在の違法ホストクラブで、売掛金名目の借金を背負わされていることが判明したため、経営者ら4人を逮捕し、店舗を閉店に追い込んだ。少女少女に対しては少年サポートセンターをはじめ、関係機関、団体等と連携した支援活動を推進している。環境対策としては、関係機関と連携した一斉街頭補導と継続補導、警固公園周辺の店舗への立入りと協力を求める活動を推進している。」旨の報告があった。

公安委員から「他県からも警固公園に少女少女が集まっており、広域性や希薄な人間関係で結びついているところは匿名・流動型犯罪グループにも似ている。今後関係機関と連携し、対策を推進していただきたい。」旨の発言があり、警察本部から「警固界隈の少女少女は、家庭や精神的に悩みを抱えている者が多いので、通常の街頭補導活動だけでなく、医療機関や行政機関等他機関と連携を取りながら解決していくことが必要である。」旨の説明があった。

公安委員から「各種対策の結果、現在は集まる子供たちの数は減っているのか。」旨の発言があり、警察本部から「街頭補導や支援により、集まる子供たちの人数は減っている。別の場所に集まらないように周辺対策や環境対策を含めて取り組んでいる。」旨の説明があった。

公安委員から「警固公園という場所が駅から近く、集まりやすい場所であると思うが、公園の閉鎖等はしていないのか。」旨の発言があり、警察本部から「閉鎖はしていない。警固公園は平成24年に犯罪の防止等を目的に行政と警察が再整備をした経緯があり、このような場所が犯罪の温床にならないように取り組んでいる。」旨の説明があった。

公安委員から「警固公園に集まっている子供たちも元々は地域の子供たちなので、私たち県民としても、子供たちを守り育てるという観点で、それぞれの分野でできる支援をしていく必要がある。」旨の発言があった。

5 柳川市昭南町におけるヘリコプター墜落事故の発生について

(刑事部)

警察本部から「7月28日、大分県で行われたイベントでの遊覧飛行を終え、佐賀空港に帰港する際、何らかの原因により、民間会社のヘリコプターが柳川市内に墜落し、乗員2名の死亡が確認された。機体は3つのパーツに分断された状態で発見されており、その状況から飛行中に空中で分離したものとみられる。現場には柳川署員、捜査第一課員、機動鑑識係員等を派遣し、運輸安全委員会航空事故調査官

等と合同で現場検証等各種捜査を実施した。今後も本件の全容解明に向けて捜査を行っていく。」旨の発言があった。

6 筑紫野市塔原東における強盗事件被疑者の逮捕について

(刑事部)

警察本部から「筑紫野警察署、春日警察署、捜査第一課及び京都府警察は、7月24日、筑紫野市所在のカラオケ店に入店し、翌25日未明、同店店員にカッターナイフを突きつけ、現金8万3,000円を強取した上、利用料金4,740円の支払いを免れたものとして、住居不定、無職の男性を7月30日に逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「被疑者の動機は不明なのか。」旨の発言があり、警察本部から「金銭に困っており、今回のカラオケ店での犯行に及んだものである。」旨の説明があった。

公安委員から「軽い気持ちで犯行に及び、指名手配を受けたから自首したように感じるが、最近の傾向なのか。」旨の発言があり、警察本部から「困窮して重要凶悪事件を起こしたり、軽い気持ちで万引きをし、強盗致傷事件等に発展したりすることはある。」旨の説明があった。

公安委員から「このようなことが起こると県民は安心して生活できないので、全容解明をお願いする。」旨の発言があった。

7 ベトナム人被疑者らによる広域侵入窃盗等事件の捜査終結について

(刑事部)

警察本部から「博多警察署ほか4警察署及び捜査第三課は、令和5年3月から同年12月までの間、福岡県内、佐賀県内及び埼玉県内において、空き家等に侵入し、現金、貴金属等を窃取したほか、共犯被疑者と共謀の上、被害者の銀行口座情報を利用し、払出盗を敢行したものとして、福岡市東区居住のベトナム国籍の男性を逮捕し、その後、共犯被疑者を払出盗で逮捕した。捜査の結果、侵入窃盗、払出盗等事件77件を確認し、捜査を終結したものである。」旨の報告があった。

公安委員から「ベトナム人が組織的に犯罪手法を教えていることはあるのか。」旨の発言があり、警察本部から「可能性としては考えられる。」旨の説明があった。

公安委員から「空き家の窃盗事件は今後も増えていく可能性があるので、対策を講じる必要がある。」旨の発言があり、警察本部から「空き家対策については、県と連携して情報を収集するなど対策を講じているところである。」旨の説明があった。

公安委員から「空き家の窃盗被害は、被害に気付くのが難しいが、このような事件を検挙することができてよかったし、抑止効果も期待できる。」旨の発言があった。

8 暴力追放福岡県民大会等の開催について

(暴力団対策部)

警察本部から「第33回暴力追放福岡県民大会及び北九州市「暴力追放・安全安心まちづくり」市民大会が、8月20日、北九州市所在のJ:COM北九州芸術劇場で合同開催される。若い世代の参加促進を図り、次世代の若者への暴力団排除継承を目的に今回は北九州市立大学応援団・チアリーダー部と県警音楽隊によるチアリーダーパフォーマンス等を予定している。」旨の報告があった。

9 犯行ツール偽造拠点の摘発及び詐欺等被疑者の逮捕について

(暴力団対策部)

警察本部から「西警察署、組織犯罪捜査課、愛知県警察等は、福岡市、名古屋市及び大阪市において、架空名義の運転免許証等を偽造し、これらを本人確認資料として不正に契約したキャッシュカードやクレジットカードを使用して、スマートフォン等を購入した後に、転売するなどして不法な利益を得ていたものとして、大阪府中央区居住の職業不詳の男性ほか11人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「指示役はまだ別にいるのか。」旨の発言があり、警察本部から「現在、捜査中である。」旨の説明があった。